

あつぎ里地里山フォーラム 生物多様性～みんなちがってみんないい

昨年12月議会で「厚木市里地里山保全等促進条例」が制定されました。それを記念して、2月1日(土)、厚木市文化会館で「あつぎ里地里山フォーラム」が開催されました。農大元学長の進士五十八氏の基調講演、その後、条例の概要説明と、「七沢里山づくりの会」「東京農大ボランティア部」「コカ・コーラ・ストジャパン(株)」から事例発表がありました。

基調講演は「環境市民のライフスタイル」と題して、農学博士・東京農業大学名誉教授・元学長の進士五十八氏。

生物多様性基本法ができたが、具体は地域地域でやらなくてはならない。厚木市が独自に生物多様性あつぎ戦略を定めたことは素晴らしい。

自然は3つ、野生、家畜、ペット。里山は、オオカミや熊・神様の領分である奥山とは違う。里地



里山は家畜であり、暮らしそのもので、美しい風景の中に生業が見える。里山の風景、その全ての営みを味わう事が、まちづくりになる。

いろんな風景があることが大事。みんなちがってみんないい。同列に扱うべき。自分を肯定することは教育の基本だ。

今の社会は縦割り化している。専門家は職業病で人のアラを探す。自分の中だけで考え、全体を忘れている。言葉を知っているのは単なる知識。農業を支えるために実学が必要である。

文化はカルチャーII耕す、一次産業は大自然とつながってきた。農業を営む「百姓」という言葉は、たくさんの能力を持つっている人のこと。日本に八百万の神がいるのは、豊かな自然があるからだ。

知性に対して、感性とはものの価値に気付く能力のことだ。

「大人は子どもに価値観を強制してはいけない。しかし、体験は強制しろ」との言葉がある。暮らし方、生活、風景も多様性が大事

第13回 神奈川七沢多喜二祭
2月22日
小林多喜二は1933年2月20日、逮捕された築地署で拷問され死んだ日です。この日を前後して各地で「多喜二祭」が開催されています。1932年に七沢の福元館に逗留し「党生活者」を執筆しました。この事実が2003年に明らかになり、多喜二のいた離れも現存しています。

第13回 神奈川七沢多喜二祭

2014年2月22日(土) 13時30分～

伊勢原市民文化会館小ホール

入場料 990円

記念講演

ノーマ・フィールドさん(シカゴ大学教授)

「いま、零時5分前です

—世界終末時計と小林多喜二—

北村 隆志さん「世界文学と小林多喜二」

ソプラノ独唱 松本良江さん

ヴァイオリン演奏 早川愛美さん

主催：神奈川七沢多喜二祭実行委員会

連絡先：事務局 蛸崎澄子 Tel 045-304-5889

今週の活動から



2月1日は市政記念日。午前中には文化会館で厚木市表彰式が行われました。午後は小ホールで里地里山フォーラム。会場のロビーには、発表団体の活動報告のパネルがありました。

(右：釘丸久子議員 左：栗山香代子議員)

里地里山は、国民全体のいのちとくらしにとっても、国土にとっても、土台であり指針ともなるものに違いありません。フォーラムの中ではTPPに触れませんでした。里地里山と農業の関係を考えると、大変な影響が出てしまうでしょう。

多様性という言葉の重みを、最後まで参加した皆さんが学ぶことのできたであろうフォーラムでした。

事例発表で、「七沢里山づくりの会」の方が「フォーラムに参加し、心境が少し変わってきた。今までは里山を治してやろうと思っていたが、活動の中で自分の心を治して頂いているんだと思う」と話していたのが、印象に残りました。

~~~~~